

湘南藤沢学会 成果報告書
「高知県黒潮町における南海トラフ巨大地震津波による
影響と事前復興計画の現状調査」
総合政策学部 2年 中山俊

-活動概要-

高知県黒潮町における南海トラフ巨大地震津波による影響と事前復興計画の現状調査

-活動目的-

東日本大震災後、従来の想定を遙かに超える巨大津波の想定が公表された。そのため沿岸部では、全国各地で新たな津波想定に対する不安が広がっている。そこで全国で最も高い津波が想定される高知県黒潮町を対象に新想定による影響を調査した。またそれに付随して被災後、住民らの生活についてどの程度検討されているか役場などへヒヤリング調査を行った。

-活動内容-

- 2/20 黒潮町役場情報防災課課長との意見交換
- 2/21 黒潮町佐賀のデータ取得
- 2/22 拳ノ川地区避難所開設マニュアル作成委員として WS に出席
- 2/23 町内のアクセシビリティ評価のためのデータ取得
- 2/24 有井川地区避難所開設マニュアル作成委員として WS に出席
- 2/25 町内のアクセシビリティ評価のためのデータ取得
- 2/26 黒潮町大方のデータ取得

-活動成果-

黒潮町役場情報防災課課長松本敏郎氏より新想定後の町の取り組み、また復興についての具体的施策についてヒヤリングを行った。この中で氏は住民と役場の震災に関するコミュニケーション・意見交換についてワークショップを新想定後 1000 回以上開き、また全世帯を対象に「カルテ」を作成したと述べた。

このカルテは

- ・ 自分が危ないという自覚、住まいのリスクを事前把握

- ・ 防災となり組（防災を切り口にして新しいコミュニケーションの構築）
- ・ 地図を書かせるので、自分の避難場所を知る、記憶に定着する
- ・ 回収率 100% 近所の出席状況が明確（サボりにくい）
- ・ アンケートと異なり、書くのを渋る人はいなかった
- ・ 渋る人はいても、ワークショップを通じてグループで話すと互いに説得するからみんな書く

といった特徴があった。従来のアンケートでは回収率が上がらず、全体像が正確に見えてこなかったが、カルテは全体像を明確にしたといえる。

また事前復興計画に関しては予算不足や人員不足、さらには国の制度不足により困難な状況であると説明を受けた。また復興計画を事前に数パターン作成し、それをステークホルダー（役場・住民など）に繰り返しヒヤリングを行いブラッシュアップするという我々の研究プロジェクトについては非常に高い興味を寄せられ、今後町としても大学と連携してこのプロジェクトを共に行う用意があるとのことだった。日本最大の津波想定がなされた後、数多くの大学、研究機関が黒潮町を対象に研究を始めた。そのなかで今まで東大や京大、群馬大が町と連携して防災について共同研究を行っているが、復興については未だ手をつけられておらず我々の研究の需要は非常に高いといえる。

またアクセシビリティに関する調査については実際と国土数値情報のデータが異なる場合があるため、避難所のデータなどを再収集した。また地域のバス会社である西南交通が運行するバスに実際に乗車するなどして、利用状況を調査した。さらには鉄道にも乗車し、地域の公共交通の現状を調査することができた。

最後に、今回の FW において資金援助をしてくださった湘南藤沢学会に対して厚く御礼申し上げます。今回得たデータや知見などを最大限に活用し、より良い研究成果が出せるよう今後もより一層精進します。